

## コチュテルの、二人の先生による素晴らしい講演

安原雅之 愛知県立芸術大学音楽学部教授 (音楽学)

愛知県立芸術大学は、パリ＝ソルボンヌ大学とのコチュテル（博士論文共同指導）の制度に基づき、本学の七條めぐみさん（音楽学）の学位審査を、2017年1月24日に本学で実施した。その審査のために、フランスとオランダから、18世紀音楽の専門家が来日されるのを機に、2つの講演会を開催した。

まず、オランダのユトレヒト大学の名誉教授、ルドルフ・ラッシュ先生による、ジェミニアーについての講演、そして、パリ＝ソルボンヌ大学教授、ラファエル・ルグラン先生によるリュリについての講演が、それぞれ、〈愛知芸大芸術講座〉、〈愛知芸大特別講座（音楽学コース）〉として、本学にて行われた。いずれも、世界的な研究者による、それぞれの専門分野の題材を取り上げた内容で、ディテールを丁寧に扱いつつ、それらを大きな脈絡でとらえていく講演は、とても興味深く、かつ非常に刺激的なものだった。

講演は英語で行われた。来場者には英文のテキストを配布し、会場では筆者が通訳を務めた。力が及ばなかった点も多々あったが、多少の助けになっていれば幸いである。

### 〈愛知芸大芸術講座〉

ルドルフ・ラッシュ名誉教授(ユトレヒト大学)  
「フランチェスコ・ジェミニアーニの《魔法の森》：私たちが知っていること、知らないけれども知りたいこと」

Dr. Rudolf Rasch (Utrecht University)

Francesco Geminiani's "Enchanted Forest":  
What we know and what we don't know but would like to know

愛知県立芸術大学  
愛知芸大  
芸術講座

愛知県立芸術大学はパリ＝ソルボンヌ大学とのコチュテル（博士論文共同指導）の制度に基づき、このほど学位審査を本学で実施いたします。その審査のために、フランスとオランダから、18世紀音楽の専門家が来日されるのを機に、講演会を開催いたします。めったにないチャンスです。お誘いあわせの上、奮ってご参加ください。

**フランチェスコ・ジェミニアーニの《魔法の森》：  
私たちが知っていること、知らないけれども知りたいこと**  
Francesco Geminiani's "Enchanted Forest":  
What we know and what we don't know but would like to know

講師：ルドルフ・ラッシュ名誉教授(ユトレヒト大学)  
Dr. Rudolf Rasch, (Utrecht University)

日時：2017年 1月 25日(水) 14時 30分～16時 00分  
場所：愛知県立芸術大学音楽学部 大演奏室A  
受講料 / 無料 事前申し込み不要 英語による講演 (通訳あり)

講師プロフィール  
ラッシュ教授は、17、18世紀オランダ音楽についての第一人者で、当時の音楽生活、楽譜印刷や出版社についての数々の著作がある。  
また、コルシィ、ヴィヴァルディ、ジェミニアーニ、ボケリニ、イタリヤの18世紀の作曲家についても研究している。2002-2012年、国際音楽学会役員。  
1998-2001年、「音楽の流通」についての国際研究チームを組織。  
これは、「1600-1800年のヨーロッパの音楽生活」という欧州科学基金プロジェクトの一部であった。また、いくつかの音楽学の雑誌の編集委員を務める。2014年立派。The Opera Omnia Francesco Geminianiの主宰である。  
HP : <http://www.let.uu.nl/~Rudolf.Rasch/personal/>

主催：愛知県立芸術大学人文学部立芸術大学 企画：愛知県立芸術大学芸術創造センター  
問い合わせ先：愛知県立芸術大学 芸術情報課 ☎0561-76-2863 <http://www.aichi-fam-u.ac.jp/>

愛知芸大芸術講座のチラシ

○日時：2017年1月25日（水）14時30分～16時00分

○場所：愛知県立芸術大学音楽学部大演奏室 A

○講師プロフィール：

ラッシュ教授は17、18世紀オランダ音楽についての第一人者で、当時の音楽生活、楽譜印刷や出版社についての数々の著作がある。また、コレルリ、ヴィヴァルディ、ジェミニアーニ、ボッケリーニ等、イタリアの18世紀の作曲家についても研究している。2002-2012年、国際音楽学会役員。1998-2001年、「音楽の流通」についての国際研究チームを統括。これは「1600-1900年のヨーロッパの音楽生活」という欧州科学基金プロジェクトの一部であった。また、いくつかの音楽学の雑誌の編集委員を務める。2014年以来、The Opera Omnia Francesco Geminianiの主幹である。

### 〔講演概要〕

イタリア生まれのフランチェスコ・ジェミニアーニ（1687-1762）は、主にイギリスで活躍した作曲家である。《魔法の森》は、出版されたのち、20世紀後半になるまでほとんど完全に忘れられていたが、非常に興味深い歴史をもっている。

イギリスの音楽史家ジョン・ホーキンスは、この作品に言及し、タッソの詩との関連性を指摘している。彼は、ロンドンで出版された「タッソによる『魔法の森』と題された詩に含まれるアイデアを表現する器楽曲」という楽譜は手にしているのだが、これが、タッソの『エルサレム解放』の「カント13」に基づくものであることに気づいており、この作品を、非音楽的なトピックや出来事を音で描写するもの、つまり標題音楽、として説明していることは興味深い。一方、チャールズ・バーニーは、そのような主張を否定している。

ジェミニアーニの手稿譜で、《魔法の森》と同じ音楽を含むが、「ラ・セルヴァ・インカンタータ（『魔法の森』のイタリア語訳）」というタイトルがつけられたものがある。ドイツの音楽家／音楽学者フリードリヒ・マテルヌス・ニックス（1845-1924）は、1906年に出版された彼の著書『過去4世紀における標題音楽』において、ジェミニアーニの音楽を標題音楽として言及している。

《魔法の森》再発見への大きな躍進は、アメリカの指揮者／音楽学者ニューウェル・ジェンキンス（1915-1996）によってなされた。彼は、初期のエディションのスコアを作成し、その音楽を研究し、演奏し、録音し、それについて「その時代のコンチェルト・グロッセの常識から逸脱している」と記した。また、ジェンキンスは、《魔法の森》はオリジナルでは劇場音楽であったと指摘した。ドイツの美術史家クリステル・ハイブロックは、これがパントマイムの見世物（スペクタクル）で、まさに《魔法の森》のフランス版となっていることを明らかにした。そして、イタリアの音楽学者エンリコ・カレリは、ジェミニアーニの、充実した伝記を書いた。この本の1章が《魔法の森》のために割かれている。カレリは、リブレットの内容とジェミニアーニの音楽を比較し、それらに関連づけた。彼はまた、この作品の現代版の楽譜を1996年に出版した。

それによって、この作品は前よりも演奏され、録音されるようになってきた。さらに、アメリカの音楽学者ニール・ザスローとマイケル・タルボットが、2013年に出版された論文で、『魔法の森』について新たな資料・情報を紹介した。

結論として、次のことが言える。まず第1に、『魔法の森』について、いろいろわかって来ている。しかし同時に、『魔法の森』について知れば知るほど、まだ知らないことがあることに気づく。つまり、数多くの研究者の努力のおかげで、私たちは多くを知ることができるようになってはいるが、まだ、将来、他の研究者によって付け加えることができる余地は、まだまだ残っているのである。

### 〈愛知芸大特別講座（音楽学コース）〉

ラファエル・ルグラン教授（パリ＝ソルボンヌ大学）

「ラモーのオペラにおける政治的意味合い」

Dr. Raphaëlle Legrand (Université de Paris-Sorbonne)

Political Subtext in Rameau's Operas

○日時：2017年1月25日（水）16時10分～17時40分

○場所：愛知県立芸術大学音楽学部大演奏室A

#### ○講師プロフィール

パリ＝ソルボンヌ大学教授。18世紀フランスのオペラとオペラ＝コミックに関する研究の第一人者で、特にラモーの作品とジェンダー問題を扱っている。ソルボンヌ大学では、二つの研究グループを立ち上げている。パフォーミング・アーツに特化した GRIMAS と女性音楽家の問題に特化した CReIM である。

数多くの著作があり、代表作として、『ラモーと和声の力 Rameau et le pouvoir de l'harmonie』（2007）がある。また、数多くのラモーのオペラに関する論文を執筆している。彼女はまた、Nicole Wild と共著で、『オペラ＝コミックへのまなざし、劇場生活の3世紀 Regards sur l'opéra-comique, Trois siècles de vie théâtrale』（2002）を刊行している。

## 〔講演概要〕

ラモーが政治とどのような関係を持っていたかを識別するのは難しい。ラモーが「王の作曲家」という地位についたのは1745年で、彼は62歳で、すでに名声を得ていた。また、ルイ15世が君臨した時代には、芸術は国王のプロパガンダのためのツールではなかった。

話をシンプルにするために、1745年以前の、オペラ作曲家としての第1期のラモーに焦点を当てたい。5つのオペラがパリのオペラ劇場で初演された:それらは、《イポリトとアリシー》、《優雅なインドの国々》、《カストールとポリュックス》、《エベの祭典》、そして《ダルダニウス》である。

テキストとサブテキストを区別することは、リブレット作家にとっても、作曲家にとっても、挑戦であった。このことは、確かな証拠が全くない状況で、どのようにサブテキストが演奏されたのか、という疑問をなげかける。それは大きな主題で、3つの点が重要である。まず第1に、ラモーのオペラが若い王の肖像を伝えているか、第2に、戦争と平和の描かれ方、そして最後に、ダルダニウスにおけるテキストとサブテキストの識別を試みることである。

《イポリトとアリシー》において、イポリトはルイ15世のように、狩をする王である。その父親テゼーは、勇敢な英雄だが、暴力的で、近視眼的で、おそらくルイ14世を反映している。一方、ポリュックスは、《カストールとポリュックス》の王子がモデルになっている。愛を放棄し、私利を乗り越えることによって、王子は調和を復旧することができて、それは最後の場面における壮大な祝福によって具体的に表現される。

《エベの祭典》において、音楽家ティルテはおそらく、ルイ15世と反対のモデルになっている。ルイ15世は、自分の軍隊の先頭にたつような人ではなかった。

《ダルダニウス》も、ファミリーのモデルから形成されており、勇敢な戦士であり、戦争に従事する。そして、ダルダニウスがクライマックスで自分の人生を危険にさらすやり方も、それまでの貴族の理想にならったものである。オペラの初版で、ダルダニウスにはモノローグや、重要なアリアはひとつもあたえられていないが、のちにヴィルトゥオーゾな短いアリアを彼に歌わせ、その登場人物を英雄化した。声楽におけるヴィルトゥオーゾ性は、18世紀のオペラにおける英雄主義に共通のメタファーであった。

《優雅なインドの国々》は、政治の場を最も著しく反映している。優雅なインドの

愛知県立芸術大学

愛知芸大特別講座  
(音楽学コース)

ラモーのオペラにおける政治的意味合い  
Political Subtext in Rameau's Operas

講師: ラファエル・ルグラン教授 (パリ・ソルボンヌ大学)  
Dr. Raphaëlle Legrand (Université de Paris-Sorbonne)

日時: 2017年1月25日(水) 16時10分~17時40分  
場所: 愛知県立芸術大学音楽学部 大演奏室A  
受講料 / 無料 事前申し込み不要 英語による講演 (通訳あり)

講師プロフィール  
パリ・ソルボンヌ大学教授。18世紀フランスのオペラとオペラ・コミックに関する研究の第一人者で、特にラモーの作品とジジター・舞踏を扱っている。ソルボンヌ大学では、二つの研究グループを立ち上げている。パフォーマンス・アーツに特化したGRIMASと女性音楽家の問題に特化したCREAMである。  
数多くの著作があり、代表作として、『ラモーと和声の力 Rameau et le pouvoir de l'harmonie』(2007)がある。また、数多くのラモーのオペラに関する論文を執筆している。教授はまた、Nicole Wild氏と共に、『オペラ・コミックへのまなざし、劇場生活の3世紀 Regards sur l'opéra-comique, Trois siècles de vie théâtrale』(2002)を刊行している。

主催: 愛知県立芸術大学法人 愛知県立芸術大学  
企画: 愛知県立芸術大学 音楽学部 作曲専攻 音楽学コース  
問い合わせ先  
愛知県立芸術大学 学務課  
☎ 0561-76-2898 <http://www.aichi-fam-u.ac.jp/>

愛知県立芸術大学 〒460-1194 名古屋市中区立川1-1-118  
交通案内:  
名古屋駅南口から地下鉄有線(有線)線下車 有線(有線)下車 有線(有線)下車  
有線(有線)下車 有線(有線)下車 有線(有線)下車 有線(有線)下車  
有線(有線)下車 有線(有線)下車 有線(有線)下車 有線(有線)下車  
有線(有線)下車 有線(有線)下車 有線(有線)下車 有線(有線)下車

愛知芸大特別講座（音楽学コース）のチラシ

国々の第4幕は、1736年3月10日に付け加えられた。それは、戦いが終わって、1735年11月5日に休戦が署名されたすぐあとのことだった。オペラのなかの国はすべて、実際に戦争中であり、ヨーロッパの政治的状況と、アメリカに置き換えられたフランスとスペインの勝利など、いくつかの解釈が可能である。もうひとつの解釈は、ネイティヴアメリカンのフィルターを通じたものである。平和のキセルの儀式は、ヨーロッパの平和の置き換えである。

オペラにおける政治的なサブテキストを解明することは非常にエキサイティングである。しかし、オペラの役割は、ひとつのアイデアを表明することだけではない。いろいろなレベルの解釈を可能にし、それゆえ聴衆は解読の遊びを楽しめる。